

ならしん景気動向調査レポート

(第15回) 2018年 1月期

奈良信用金庫 総合企画部 奈良県大和郡山市南郡山町529-6

TEL (0743-54-3116) URL <http://www.narashin.co.jp>

1. 調査期間…… 平成30年1月
2. 調査時点…… 平成30年1月 (前回調査 平成29年10月)
3. 調査対象…… 当金庫取引事業先
※対象先は任意に選定(毎年一部見直し)
4. 調査方法…… 往訪面談・電話等によるヒアリング調査
5. 回答状況

	対象先数	回答先数	回答率
製造業	39	38	97.4%
不動産業	17	17	100.0%
サービス業	14	14	100.0%
卸売・小売業	31	31	100.0%
建設業	14	14	100.0%
運輸業	9	9	100.0%
医療・福祉	11	11	100.0%
全業種合計	135	134	99.3%

当金庫でお取引をいただいている事業先から業種に偏りのないよう135社を任意に選定させていただき、最近の業況・資金繰り等、景気動向に関連するアンケート項目の聞き取りについて、ご協力をお願いいたしました。
うち、134社よりご回答を賜りました。

今回調査結果一覧

平成30年1月

全業種

	対象先数	回答先数	回答率	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI	DI
				業況	売上金額	収益	資金繰り	前年同期比売上	前年同期比収益	残業時間	人材
製造業	39	38	97.4%	35.9%	20.5%	10.3%	17.9%	17.9%	28.2%	0.0%	-10.3%
不動産業	17	17	100.0%	5.9%	17.6%	11.8%	5.9%	11.8%	5.9%	11.8%	0.0%
サービス業	14	14	100.0%	0.0%	-14.3%	-28.6%	14.3%	0.0%	-7.1%	-21.4%	-35.7%
卸売・小売業	31	31	100.0%	6.5%	12.9%	3.2%	9.7%	16.1%	9.7%	19.4%	-6.5%
建設業	14	14	100.0%	42.9%	50.0%	21.4%	42.9%	14.3%	7.1%	-14.3%	-14.3%
運輸業	9	9	100.0%	77.8%	66.7%	44.4%	55.6%	66.7%	55.6%	-11.1%	44.4%
医療・福祉	11	11	100.0%	36.4%	36.4%	9.1%	27.3%	36.4%	18.2%	0.0%	0.0%
全業種合計	135	134	99.3%	25.2%	22.2%	8.1%	20.0%	19.3%	16.3%	1.5%	-6.7%

	借入実施		設備投資実施			
	あり	なし	あり	なし		
製造業	24	12	14	22		
不動産業	10	7	0	17		
サービス業	10	3	6	7		
卸売・小売業	14	16	9	21		
建設業	10	4	0	14		
運輸業	5	3	4	4		
医療・福祉	9	1	4	6		
全業種合計	82	46	37	91		

「DI」について

「diffusion index (ディフュージョン・インデックス)」の略で、景気・業況などの動きを示すものです。このレポートでは、お客さまからいただいたご回答のうち「良い」「やや良い」の割合から、「やや悪い」「悪い」の割合を引いたものを記載しています。

(例) 業況について ご回答 (5社)

A社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
B社	(1) 良い	<u>(2) やや良い</u>	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い
C社	(1) 良い	(2) やや良い	<u>(3) 普通</u>	(4) やや悪い	(5) 悪い
D社	(1) 良い	(2) やや良い	(3) 普通	<u>(4) やや悪い</u>	(5) 悪い
E社	<u>(1) 良い</u>	(2) やや良い	(3) 普通	(4) やや悪い	(5) 悪い

$$DI = \left[\frac{[(\text{良い} \times 2 + \text{やや良い} \times 1) \div 5社]}{[60.0\%]} \right] - \left[\frac{[(\text{やや悪い} \times 1 + \text{悪い} \times 0) \div 5社]}{[20.0\%]} \right] = 40.0\%$$

全業種合計	対象先 135	回答先 134	回答率 99.3%
-------	---------	---------	-----------

全体調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
27.4%	25.2%	-2.2%	31.9%	22.2%	-9.7%	12.6%	8.1%	-4.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
21.5%	20.0%	-1.5%	27.4%	19.3%	-8.1%	22.2%	16.3%	-5.9%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
3.7%	1.5%	-2.2%	-3.0%	-6.7%	-3.7%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
61.0%	64.1%	3.1%	34.7%	28.9%	-5.8%			

■概況 ※()内はDI値

全業種合計の業況判断DIは前回調査時より2.2ポイント下降したが、良化傾向(25.2%)は継続している。良化幅を下方へと向かわせたのは不動産業、製造業、サービス業。他業種については、好調な業況を継続しており楽観視はできないものの、良好な先行きを示唆している。

売上についても業況と同様に不動産業、製造業、サービス業で大幅に減少した。全業種全体は、前年比9.7ポイント下降したが、卸売・小売業、建設業が大幅に上昇したこともあり、良化傾向を維持した。

収益面については全業種合計で前年比4.5ポイント下降したが良化傾向は継続。売上を大きく伸ばした卸売・小売業建設業が収益面でも良化幅を大きく上昇させた。

収益面で良化幅を下方へと向けた業種は製造業、サービス業、医療・福祉の3業種。特に、サービス業については、同業者競争の激化、人手不足、人件費上昇等の要因から、前年比42.9ポイントと大幅に下降し、悪化傾向に転じた。

なお、1~3月の収益見通しでは、前年に比べて「良い」と回答した企業が減少し、「悪い」と回答した企業が若干ながら増加したが、半数以上が「普通」と予想しており、現状を維持していくものと見込まれる。

国内景気は、上場企業が最高益を更新する等好決算が予想されており、景気見通しについても「良い」、「やや良い」と回答した企業は76社と良好な先行きを示唆している。一方で米国、欧州の中央銀行が金融緩和の出口戦略に着手し、金利急騰等の不安感から株式市場が乱高下するリスクや、引き続き北朝鮮等の地政学リスクも注視する必要がある。

なお、借入によって資金調達を行ったのは全体の64.1%となり、前年比3.1ポイント上昇した。

全業種合計の前年同期比売上は全体的に前回調査時8.1ポイント減少したが、良化傾向(19.3%)を継続。前年同期比の収益についても、前年比5.9ポイント減少したが、全体的に増加傾向(16.3%)を継続している。

なお、設備投資を行ったのは全体の28.9%であり、前年比5.8ポイント減少した。

経営上の問題点としては「人手不足」「同業者競争の激化」の項目が常態化しており、「人材確保」、「販路拡大」を当面の重点経営施策として挙げる企業が多い。

国内景気は76社が「やや良い」以上の回答をしているが、貴社の見通しについては「やや良い」以上の回答が50社と減少することから景気上昇が地方にまで波及していないことが伺える。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」13社、「やや良い」63社、「普通」46社、「やや悪い」11社、「悪い」0社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」9社、「やや良い」41社、「普通」70社、「やや悪い」14社、「悪い」0社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」1社、「20~29%の増加」10社、「10~19%の増加」23社、「10%未満の増加」26社 「変わらない」56社、「10%未満の減少」12社、「10~19%の減少」3社、「20~29%の減少」1社、「30%以上の減少」1社
貴社における、自社の業況が上向き転換点の見通し	「すでに上向いている」36社、「6ヶ月以内」19社、「1年後」35社、「2年後」6社 「3年後」6社、「3年超」1社、「見通しは立たない」27社
業績(1-3月見込み)	「良い」10社、「やや良い」32社、「普通」80社、「やや悪い」11社、「悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」12社、「やや良い」33社、「普通」74社、「やや悪い」14社、「悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」5社、「やや良い」29社、「普通」82社、「やや悪い」17社、「悪い」1社

業種別の概況・経営上の問題点・当面の対策・その他特別に調査した項目については、次ページ以降に内容を記載しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
53.8%	35.9%	-17.9%	61.5%	20.5%	-41.0%	38.5%	10.3%	-28.2%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
41.0%	17.9%	-23.1%	46.2%	17.9%	-28.3%	35.9%	28.2%	-7.7%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
2.6%	0.0%	-2.6%	0.0%	-10.3%	-10.3%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
58.3%	66.7%	8.4%	36.1%	38.9%	2.8%			

■概況 ※()内はDI値

製造業全体の業況判断DIは前回調査時に比べて17.9ポイントと大幅に下降したが、良化傾向(35.9%)は維持した。

売上金額も前回比41ポイントと大幅に下降したが良化傾向(20.5%)は維持した。

収益についても売上減少、原材料高の影響により前回より28.2ポイントの大幅下降となったが、良化傾向(10.3%)は維持した。

販売価格は10.2ポイント上昇し、良化傾向(20.5%)が拡大したが、一方で原材料価格、原材料在庫が悪化傾向を深化させた。

資金繰りについては23.1ポイントの大幅な減少となったことから、借り入れによって資金調達を行った企業が増加し、8.4ポイント増加の66.7%となった。

前年同期比売上は前回比28.3ポイント下降したが、良化傾向(17.9%)は維持した。同収益についても前回調査時より7.7ポイント下降したものの良化傾向(28.2%)は維持した。

一方人材については、前回より10.3ポイント改悪し、不足傾向(-10.3%)に転じた。

設備投資を行った先は全体の38.9%で、前回より2.8ポイント増加した。

■経営上の問題点

「人手不足」が15社でトップ。次点で「原材料高」が11社、「売上停滞・減少」「同業者競争の激化」が各々9社と続く。景況アンケートでも原材料価格、人材の項目が悪化傾向となっており、引続き経営上の問題点となっていることが伺える。

■当面の対策

依然、対策としては「販路拡大」が最も多く、22社で重点施策とされている。次いで技術力・営業力強化15社、人材確保11社となっている。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」4社、「やや良い」21社、「普通」11社、「やや悪い」2社、「悪い」0社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」2社、「やや良い」19社、「普通」14社、「やや悪い」3社、「悪い」0社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」1社、「10~19%の増加」11社、「10%未満の増加」10社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「変わらない」13社、「10%未満の減少」1社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」1社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」16社、「6ヶ月以内」5社、「1年後」7社、「2年後」1社
	「3年後」1社、「3年超」0社、「見通しは立たない」7社
業績(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」12社、「普通」20社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」3社、「やや良い」12社、「普通」19社、「やや悪い」3社、「悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」8社、「普通」25社、「やや悪い」2社、「悪い」1社

業況、売上額DIともに、前回調査時より大幅に下降したものの、良化傾向を維持しております。販売額DIは前回比上昇しているにもかかわらず、収益DIは大きく下落していることから、原材料価格高騰の影響が大きくなっていることが伺えます。

尚、今後の業績・売上額・収益の各見込み(1~3月)については「良い」「やや良い」と回答した企業が減少し、「やや悪い」、「悪い」の回答が増加していることから厳しい業況が続く可能性があります。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
23.5%	5.9%	-17.6%	29.4%	17.6%	-11.8%	11.8%	11.8%	0.0%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-11.8%	5.9%	17.7%	29.4%	11.8%	-17.6%	23.5%	5.9%	-17.6%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
5.9%	11.8%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
61.5%	58.8%	-2.7%	23.1%	0.0%	-23.1%			

■概況 ※()内はDI値

不動産業全体の業況判断DIは良化傾向(5.9%)を維持したものの、前回は17.6ポイントと大幅に下降した。売上金額についても、前回調査時より11.8ポイント大幅下落したが、良化傾向(17.6%)は維持した。販売価格は前回調査時より5.9ポイント改善したが、引続き悪化傾向を継続した。売上は悪化したものの販売価格、仕入れ価格の改善により収益面では前回比変わらず良化傾向(11.8%)を維持した。また、資金繰りについても前回は17.7ポイント上昇し、良化傾向(5.9%)に転じた。なお、借入によって資金調達を行った先は全体の58.8%であり、前回は2.7ポイント減少した。

一方で、売上における前年同期比では、前回は17.6ポイント下降したが、良化傾向(11.8%)を維持した。また、同収益についても、前回は17.6ポイント下降したが、良化傾向(5.9%)は維持した。残業時間は前回調査時より5.9ポイント改善し、良化傾向(11.8%)を維持。人材は前回同様、横這い(0%)となった。設備投資は前回調査時より23.1ポイント減少し、実施した企業は0であった。

■経営上の問題点

経営課題としては、前回と同様「同業者競争の激化」が8社でトップ。次いで「経費の増加」が6社、「仕入高」「利益幅の縮小」が各々3社と続いた。販売価格、仕入れ価格の悪化傾向が継続されていることから、「同業者競争の激化」が深刻であることが伺える。

■当面の対策

当面の対策は「情報力の強化」が7社となりトップとなった。続いて「宣伝・広告の強化」、「技術力・営業力の強化」が各々6社と続いた。また「販路拡大」、「仕入先開拓」も各々5社が当面の対策としてあがっており引続き重点施策として意識されている。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「やや良い」7社、「普通」7社、「やや悪い」3社
平成30年貴社の景気見通し	「やや良い」3社、「普通」13社、「やや悪い」1社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」3社、「10~19%の増加」1社、「10%未満の増以」1社 「変わらない」10社、「10%未満の減少」0社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」0社、「6ヶ月以内」2社、「1年後」5社、「2年後」2社 「3年後」2社、「3年超」0社、「見通しは立たない」5社
業績(1-3月見込み)	「やや良い」4社、「普通」11社、「やや悪い」2社
売上額(1-3月見込み)	「やや良い」3社、「普通」12社、「やや悪い」2社
収益(1-3月見込み)	「やや良い」3社、「普通」11社、「やや悪い」3社

業況、売上DIともに良化傾向は維持しているものの、前回調査時より業況は17.6ポイント、売上は11.8ポイント下降し、良化幅を縮小しました。業況、売上悪化の背景には、以前より問題視されていた競争の激化があげられており、「情報力」、「宣伝・広告」、「営業力」の強化を重点施策として取り組む傾向が伺えます。業績・売上額・収益の見込みは大半が「普通」となり、前回に比べて「やや良い」と回答した企業は減少していることから、現状を維持していくものの、良化傾向が縮小していく可能性も示唆しております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
14.3%	0.0%	-14.3%	21.4%	-14.3%	-35.7%	14.3%	-28.6%	-42.9%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
35.7%	14.3%	-21.4%	21.4%	0.0%	-21.4%	14.3%	-7.1%	-21.4%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
0.0%	-21.4%	-21.4%	-28.6%	-35.7%	-7.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
71.4%	76.9%	5.5%	57.1%	46.2%	-10.9%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉を除くサービス業の業況判断DIは、前回調査時と比べて14.3ポイント下落し横這いとなった。売上金額については、前回比35.7ポイント大幅に下降し、悪化傾向(-14.3%)に転じた。また材料価格DIも前回比35.7ポイント下降し、悪化傾向(-35.7%)となった。この結果、収益への影響が大きく、収益DIは前回比42.9ポイント大幅下降し悪化傾向(-28.6%)に転じた。

また、借入によって資金調達を行った先は全体の76.9%であり、前回比5.5ポイント上昇した。

前年同期比売上も前回比21.4ポイント大幅に下降し、横這いとなった。

同収益についても前回比21.4ポイント大幅に下降し、悪化傾向(7.1%)に転じた。

人材についても7.1ポイント悪化し、不足傾向(-35.7%)を拡大した。人材不足の影響からか残業時間は前回比21.4ポイント下降し悪化傾向(-21.4%)に転じた。

設備投資を行った先は全体の46.2%で、前回調査時より10.9ポイント減少した。

■経営上の問題点

前回調査時に次点だった「同業者競争の激化」が8社でトップ。続いて「人手不足」が7社、「利益幅の縮小」が5社と続いた。競争の激化が利益幅の縮小を呼び、人手不足も重なったことから売上、収益に関して悪化傾向となってきている。

■当面の対策

依然として「人材確保」が8社で当面の対策として取組まれている。次点で「経費削減」が6社と続き、収益の低下から、今まであまり意識されていなかった経費削減にも意識が向いていることが伺える。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「やや良い」6社、「普通」5社、「やや悪い」3社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」0社、「やや良い」2社、「普通」7社、「やや悪い」5社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」1社、「10~19%の増加」0社、「10%未満の増加」2社 「変わらない」5社、「10%未満の減少」5社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見通し	「すでに上向いている」1社、「6ヶ月以内」1社、「1年後」7社、「2年後」1社 「3年後」1社、「3年超」1社、「見通しは立たない」2社
業績(1-3月見込み)	「良い」0社、「やや良い」3社、「普通」10社、「やや悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」0社、「やや良い」3社、「普通」9社、「やや悪い」2社
収益(1-3月見込み)	「良い」0社、「やや良い」4社、「普通」6社「やや悪い」4社

業況・売上・収益共に変化幅を下方へと向かわせ、厳しい状況を伺わせる結果となりました。材料価格の高騰、人手不足の常態化による人件費上昇等が収益の重荷となり、経費削減を問題視する傾向が強くなっております。

資金繰りのみが良化傾向(14.3%)を維持しておりますが、前回調査時から21.4ポイントマイナスとなっており、先々の資金繰りの悪化も懸念されます。

今後3か月の、業績、売上、収益見込みは「普通」と回答した企業が大半を占めるものの、「やや悪い」と回答した数も前回調査時より増加しており厳しい業況が続く可能性が高まっております。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-12.9%	6.5%	19.4%	-6.5%	12.9%	19.4%	-19.4%	3.2%	22.6%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
-6.5%	9.7%	16.2%	6.5%	16.1%	9.6%	6.5%	9.7%	3.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
12.9%	19.4%	6.5%	0.0%	-6.5%	-6.5%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
50.0%	46.7%	-3.3%	32.1%	30.0%	-2.1%			

■概況 ※()内はDI値

卸売・小売業全体の業況判断DIは前回は19.4ポイント上昇し、平成29年4月の調査ぶりに良化傾向(6.5%)に転じた。売上についても19.4ポイント上昇し良化傾向(12.9%)に転じ、収益についても22.6ポイント大幅に上昇し良化傾向(3.2%)に転じた。販売価格についても12.9ポイント改善し、良化傾向(16.1%)を拡大した。仕入れ価格については、前回は12.9ポイント改善し、悪化傾向(-6.5%)を縮小させた。

在庫過多は前回同様悪化傾向(-12.9%)が継続した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の46.7%となり、前回は3.3ポイント減少した。

前年同期比売上は前回は9.6ポイント上昇し、良化傾向(16.1%)の拡大となった。

同収益についても前回は3.2ポイント上昇し良化傾向(9.7%)を継続した。

残業時間は前回は6.5ポイント上昇し、改善傾向(19.4%)を拡張したが、人材不足は前回は6.5ポイント下降し、不足傾向(-6.5%)となった。

設備投資割合は30%となり、前回は2.1ポイントの減少となっている。

■経営上の問題点

依然として「同業者競争の激化」が14社でトップ。次点で「人手不足」が11社、「売上停滞・減少」が9社と続いている。前回調査までは材料高や経費の増加が問題としてあげられていたが、人手不足や今後の売上停滞等に目を向けられるようになってきた。

■当面の対策

依然として「販路拡大」が16社でトップ。次点も前回同様「経費節減」が13社と続いた。また人手不足を解消するための「人材確保」が11社と重要視されるようになってきた。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」5社、「やや良い」11社、「普通」12社、「やや悪い」2社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」3社、「やや良い」4社、「普通」21社、「やや悪い」3社、「悪い」0社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」3社、「10~19%の増加」3社、「10%未満の増加」6社
	「変わらない」12社、「10%未満の減少」6社、「10~19%の減少」1社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見通し	「すでに上向いている」7社、「6ヶ月以内」4社、「1年後」6社、「2年後」2社
	「3年後」1社、「3年超」0社、「見通しは立たない」9社
業績(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」8社、「普通」17社、「やや悪い」4社
売上額(1-3月見込み)	「良い」3社、「やや良い」8社、「普通」14社、「やや悪い」6社
収益(1-3月見込み)	「良い」0社、「やや良い」8社、「普通」17社、「やや悪い」6社

前回、前々回調査時に厳しい状況となっていた卸売・小売業ですが、業況・売上・収益DI各々に大幅上昇し良化傾向に転じ回復傾向となってきました。しかしながら、依然として同業社との激しい競争は変わらず、販路拡大に加えて人材確保にも注力する姿勢が伺えます。

業績・売上・収益見込みについては、大半の企業が「普通」と回答しておりますが、「やや良い」以上の回答が前回より増加しており、低調な業況からの緩やかな回復を示唆する結果となりました。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
35.7%	42.9%	7.2%	21.4%	50.0%	28.6%	-7.1%	21.4%	28.5%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
21.4%	42.9%	21.5%	0.0%	14.3%	14.3%	0.0%	7.1%	7.1%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-7.1%	-14.3%	-7.2%	-21.4%	-14.3%	7.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
84.6%	71.4%	-13.2%	8.3%	0.0%	-8.3%			

■概況 ※()内はDI値

建設業全体の業況判断DIは前回は7.2ポイント上昇し、良化傾向(42.9%)を継続している。売上金額についても、前回は28.6ポイント大幅に上昇し、良化傾向(50%)拡大となった。受注残高については、前回調査時と変わらず、良化傾向(42.9%)を維持した。

資金繰りについても前回調査時21.5ポイント上昇し良化傾向(42.9%)を継続。収益についても好調な売上から28.5ポイント大幅に上昇し良化傾向(21.4%)に転じた。

借入によって資金調達を行った先は71.4%で前回は13.2ポイント減少したが、高い借入実施となった。

前年同期比売上は前回は14.3ポイント上昇し、良化傾向(14.3%)に転じた。同収益についても前回は7.1ポイント上昇し、良化傾向(7.1%)に転じた。

残業時間は前回は7.2ポイント改悪となり、悪化傾向(-14.3%)が拡大した。

人材不足については前回調査時より7.1ポイント上昇したが、引続き不足傾向(-14.3%)となった。

なお、設備投資を行った先は0%となっており、前回よりも8.3ポイント減少した。

■経営上の問題点

依然として「同業者競争の激化」が10社と最も多く、次いで「経費の増加」が7社と続いた。前回調査と同様の結果となったが、意識する企業数は増加に転じている。

■当面の対策

「経費削減」が6社でトップ。次点で、「人材確保」、「宣伝・広告の強化」、「技術力・営業力強化」が5社と続いた。経費削減による収益力の向上、同業者競争に勝ち残るための広告、営業力の強化に注力することが伺える結果となった。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」1社、「やや良い」8社、「普通」5社、「やや悪い」0社、「悪い」0社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」5社、「普通」7社、「やや悪い」1社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」2社、「10~19%の増加」2社、「10%未満の増加」1社 「変わらない」9社、「10%未満の減少」0社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見通し	「すでに上向いている」5社、「6ヶ月以内」1社、「1年後」7社、「2年後」0社 「3年後」1社、「3年超」0社、「見通しは立たない」0社
業績(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」3社、「普通」9社、「やや悪い」0社
売上額(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」2社、「普通」10社、「やや悪い」0社
収益(1-3月見込み)	「良い」1社、「やや良い」2社、「普通」11社、「やや悪い」0社

業況、売上、収益DIともに前回調査時より良化幅を上方に向かわせ、好調な業況を継続しております。また、引き続き受注残高についても業況は良化傾向を維持していることから、今後3か月の見込みについては全企業が普通以上の回答となり、今後も好調な業況が見込まれます。しかしながら、引続き激しい競争、経費の増加の問題は解消しておらず、また人材確保も問題視されていることから、他社との差別化を図るために、技術力・営業力強化に取り組む姿勢が伺えます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
55.6%	77.8%	22.2%	66.7%	66.7%	0.0%	33.3%	44.4%	11.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
44.4%	55.6%	11.2%	55.6%	66.7%	11.1%	44.4%	55.6%	11.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
-22.2%	-11.1%	11.1%	33.3%	44.4%	11.1%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
44.4%	62.5%	18.1%	50.0%	50.0%	0.0%			

■概況 ※()内はDI値

運輸業全体の業況判断DIは前回は22.2ポイント上昇し、良化傾向(77.8%)を拡張した。

売上金額は前回は変化なく、良化傾向(66.7%)を継続、収益面については前回は11.1%上昇し良化傾向(44.4%)を拡張した。

燃料価格については前回は変化なく横這い、料金価格は22.2ポイント悪化したが良化傾向(11.1%)は継続。資金繰りについても11.2ポイント上昇し良化傾向(55.6%)を拡張した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の62.5%であり、前回は18.1ポイント増加した。

前年同期比売上は前回は11.1ポイント上昇し、増加傾向(66.7%)を継続。

同収益も同様に、前回は11.2ポイント上昇し、増加傾向(55.6%)を継続している。

残業時間は前回は11.1ポイント改善したが、悪化傾向(-11.1%)は継続。

また、人材不足は前回は11.1ポイント上昇し、良化傾向(44.4%)継続となった。

なお、設備投資を行った先は50%となり横這いであった。

■経営上の問題点

「人手不足」が6社でトップ。人材DIは改善傾向であるが、業況拡大が続いており引続き人手不足が問題視されている。

■当面の対策

「人材確保」が6社でトップ。次点で「販路拡大」が4社と続いた。引続き人材に対しての経営意識が高まっていることが伺える。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」2社、「やや良い」4社、「普通」3社、「悪い」0社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」2社、「やや良い」4社、「普通」3社、「やや悪い」0社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」1社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」4社、「10%未満の増加」2社 「変わらない」2社、「10%未満の減少」0社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が上向く転換点の見通し	「すでに上向いている」4社、「6ヶ月以内」2社、「1年後」2社、「2年後」0社 「3年後」0社、「3年超」0社、「見通しは立たない」1社
業績(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」1社、「普通」6社
売上額(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」4社、「普通」3社
収益(1-3月見込み)	「良い」0社、「やや良い」4社、「普通」5社

業況、売上、収益共に、好調な良化傾向を継続しております。燃料価格については横這い、料金価格については変化幅が下方に向かい収益への影響は懸念されるものの、景況感には良化傾向を拡張しております。人材は不足感が改善され良化傾向となっておりますが、好調な業況から残業時間は引続き悪化傾向となっております、引き続き人材確保が大きな課題となっております。

1-3月の業績、売上、収益については何れの企業も「普通」以上の回答となっており、引き続き好調な業況が続くことが予想されます。

業種別
調査結果

DI								
業況			売上金額			収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
36.4%	36.4%	0.0%	36.4%	36.4%	0.0%	18.2%	9.1%	-9.1%
DI								
資金繰り			前年同期比売上			前年同期比収益		
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅
45.5%	27.3%	-18.2%	36.4%	36.4%	0.0%	36.4%	18.2%	-18.2%
DI								
残業時間			人材					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
18.2%	0.0%	-18.2%	0.0%	0.0%	0.0%			
対策								
借入実施割合			設備投資割合					
前回	今回	変化幅	前回	今回	変化幅			
70.0%	90.0%	20.0%	40.0%	40.0%	0.0%			

■概況 ※()内はDI値

医療・福祉分野の業況判断DIは前回比と変わらず、良化傾向(36.4%)を維持した。
 売上金額についても、前回比と変わらず、良化傾向(36.4%)を維持した。
 ベット稼働率については前回調査時よりも18.1ポイント増加し良化傾向(54.5%)を拡大、通院者数についても27.3ポイント増加し良化傾向(45.5%)を拡大した。
 収益については前回比9.1ポイント下降したものの、良化傾向(9.1%)を維持した。
 また、資金繰りについては前回比-18.2ポイントと大幅に下降したが、良化傾向(27.3%)を維持した。

なお、借入によって資金調達を行った先は全体の90%であり、前回比20ポイント増加している。

また、前年同期比売上は前回比変わらず、良化傾向(36.4%)を維持。
 同収益については、前回比18.2ポイント下降したものの、良化傾向(18.2%)を維持した。
 残業時間は前回比18.2ポイント下降し、横這いとなった。
 人材面では、前回比変わらず横這いとなった。
 なお、全体の40%の先で設備投資を行っており、前回比変化はなかった。

■経営上の問題点

依然として「人手不足」が最も多く8社。続いて「同業者競争の激化」が3社となった。
 慢性的な「人手不足」は深刻さを増し、大きな課題として捉えられている。

■当面の対策

「人材確保」が依然として最も多く9社でトップ。次点で「社員教育」が4社と続いた。
 優秀な人材確保に注力することに加えて、通院者数の減少の改善、ベット稼働率を上げ、収入を向上する施策が重要となってきている。

■特別調査	平成30年度の経営見直しおよび、今後3ヶ月(1-3月)の業績見込み
平成30年国内景気見通し	「良い」1社、「やや良い」6社、「普通」3社、「やや悪い」1社
平成30年貴社の景気見通し	「良い」1社、「やや良い」4社、「普通」5社、「やや悪い」1社
平成30年における貴社の売上伸率の見通し(対前年比)	「30%以上増加」0社、「20~29%の増加」0社、「10~19%の増加」2社、「10%未満の増加」4社 「変わらない」5社、「10%未満の減少」1社、「10~19%の減少」0社、「20~29%の減少」0社、「30%以上の減少」0社
貴社における、自社の業況が向上く転換点の見通し	「すでに上向いている」3社、「6ヶ月以内」4社、「1年後」1社、「2年後」0社 「3年後」0社、「3年超」0社、「見通しは立たない」7社
業績(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」1社、「普通」7社、「やや悪い」1社
売上額(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」1社、「普通」7社、「やや悪い」1社
収益(1-3月見込み)	「良い」2社、「やや良い」0社、「普通」7社、「やや悪い」2社

業況、売上については、良化傾向を維持し、依然として好調な業況を維持しております。ベット稼働率、通院者数増加が好調な業況維持に繋がったものと思われます。一方で、収益DIについては前回比下降し、同業者競争の激化や新規開拓の難しさが影響したものと思われます。当面の施策として、サービス業の要である、人材確保、社員教育が重要視されており、人手不足に加え、採用した人材の早期戦力化が重要と認識されています。
 1-3月の業績・売上額・収益の各見込みでは全企業で「普通」以上の回答となっており、依然として業況は堅調に推移していくと見込まれます。